

2024年(令和6年)

4月例会

日時：4月20日(土)14時より

会場：日本女子大学目白キャンパス新泉山館201教室

講師：上智大学(PD) 谷地彩

題目：文学作品に描かれた稲・ブリンクリー

司会：日本大学 梅本順子

5月例会

日時：5月18日(土)14時より

会場：日本女子大学目白キャンパス新泉山館201教室

講師：都留文科大学 齊藤みどり

題目：ディアスポラたちをつなげる

—— キャリル・フィリップスの Higher Ground (1989) と

The Nature of Blood (1997) を中心に ——

司会：明治大学 中村和恵

※お断り

昨年発行分のニューズレターにおいて、11月例会の「講演」表記が抜けておりました。

お詫びして訂正させていただきます。

INSIDE THIS ISSUE

1. 4月・5月例会案内
2. 例会要旨等
3. 例会会場案内
4. 東京支部短信

役員連絡会開催のお知らせ

2024年4月、5月例会終了後、開催します。

(役員連絡会の構成員は支部長、事務局長、各種委員会委員長、事務局委員です。委員会の委員、幹事は含まれませんが、陪席を歓迎します)

4月例会発表要旨

文学作品に描かれた稲・ブリンクリー

上智大学 (PD) 谷地彩

本発表では、フランシス・ブリンクリー (Francis Brinkley, 1841-1912) の次女である稲・ブランクシー・ブリンクリー (Ine Blanche Brinkley, 1890-1954) が、文学作品においてどのように描かれていたかを考察する。

フランシス・ブリンクリーは、明治期の主要なジャパノロジストであり、横浜発行の英字新聞『ジャパン・メール』の社主やロンドン発行の新聞『タイムズ』の通信員として、国際社会に向けて日本の情報を発信した。また、不平等条約改正や日英同盟締結に尽力し、日本の国際社会における地位向上に多大なる貢献を果たした人物として知られている。フランシスは水戸藩士の娘田中安子と結婚しているが、これは、英国人と日本人の婚姻が英国の法律において正式に認められた初めての例であり、二人の結婚は個人的な問題にとどまらず、英国が日本を欧米諸国と同等視したことの傍証として見なされている。

そして、フランシスと安子との間に誕生した稲は、長谷川時雨の『美人伝』(1918) に登場するほどの美貌で知られ、明治時代において独特の存在感を放っていた。ロマンスについての噂も多く、『美人伝』には、「稲子さんの恋は多くの人を泣かせた」と書かれるほどである。実際に、山岸荷葉が二代目市川左団次と稲をモデルとした小説「舞台顔」(1906) を書き、雑誌『新小説』に掲載されたことから注目度の高さが窺える。「舞台顔」以外にも、稲は、志賀直哉の自伝的小説「大津順吉」(1912) に登場する絹ウィーラーや、英国で出版されたジョン・パリスの『キモノ』(1921) のスミス・八重子などのモデルとして知られている。本発表では、稲が文学作品のモデルとなった当時の社会背景を踏まえ、文学作品での稲の描かれ方を検討したい。

5月例会発表要旨

ディアスポラたちをつなげる ——キャリル・フィリップスの Higher Ground (1989) と The Nature of Blood (1997) を中心に——

都留文科大学 齊藤みどり

キャリル・フィリップス (Caryl Phillips, 1958-) は、カリブ海域のセント・キッツという小さな島に生まれ、英国で育った黒人作家であり、黒人への差別を身近に感じつつ育った。当時の英国の学校やメディアでは、ホロコーストは頻繁に取り上げられたものの、奴隷制について語られることは少なかったという。そのため、彼は同じディアスポラであるユダヤ人の迫害の歴史を通して奴隷制や黒人への差別を理解しようと試み、それは彼の3作品目の Higher Ground (1989) と6作目の The Nature of Blood (1997) として結実する。

Higher Ground (1989) では、フィリップスは全く違う時代と場所に生きた3つの物語を、追放の経験から結びつけている。はじめの“Heart Land”は、18世紀に奴隷貿易が行われていたアフリカの沿岸で、英国人と奴隷の仲介をする主人公の物語である。第二の“Cargo Rap”は、1960年代のアメリカ南部で投獄された黒人のルディの物語である。第三の“Higher Ground”は、家族をホロコーストで亡くし、ひとり英国に渡り、離婚ののちに自死するユダヤ人女性イレーナの物語である。また、The Nature of Blood (1997) でも、ユダヤ系ドイツ人の元医師のステファン・スターン、彼の姪で、強制収容所を生き延びたエヴァ、15世紀のヴェネツィア共和国の黒人將軍オテロの3人の物語をつないでいる。

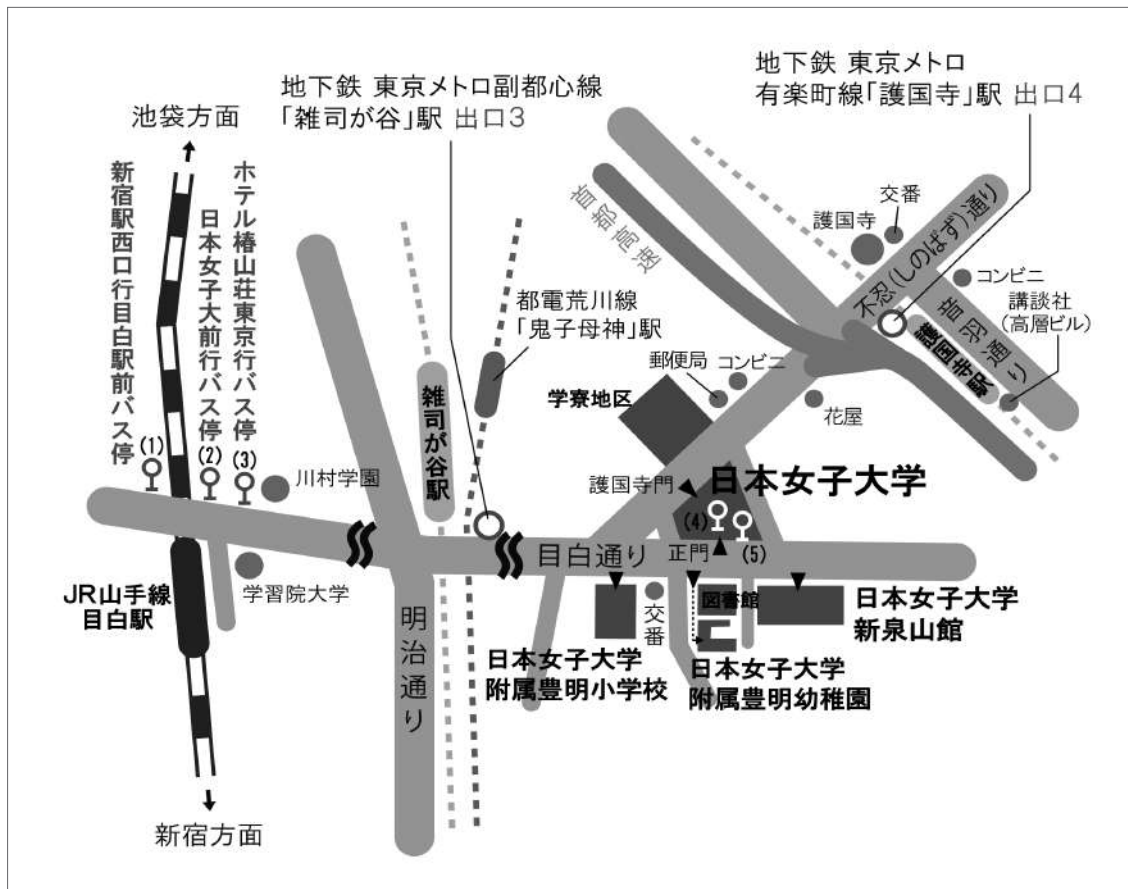
以上の2作品はユダヤ人と黒人を結びつけているが、英国人の作家であり批評家のヒラリー・マンテルは、フィリップスが黒人とユダヤ人の苦難を同等に扱ったと批判した。一方で、ベネディクト・レデントは、硬直化したアイデンティティ・ポリティクスを見直すものとして作品を評価している。発表では、「他者」の経験を理解する可能性を問うために、フィリップスが作品でユダヤ人と黒人の経験を結びつけることの意味を考察する。

4・5月例会会場

日本女子大学 目白キャンパス新泉山館 201 教室

〒112-8681 東京都文京区目白台 2-8-1

- ▶ JR 山手線「目白」駅から徒歩約 15 分・バス約 5 分
- ▶ 東京メトロ副都心線「雑司が谷」駅(3 番出口)から徒歩約 8 分
- ▶ 東京メトロ有楽町線「護国寺」駅(4 番出口)から徒歩約 10 分



東京支部短信

第 62 回東京支部大会開催日・開催方法のお知らせ

第62回東京支部大会は10月19日(土)に清泉女子大学で開催される予定です。研究発表はすべて対面での開催となります。

第 62 回東京支部大会研究発表者募集

2024年10月19日(土)に第62回東京支部大会が清泉女子大学で開催されます。研究発表を希望される方は、氏名、住所・連絡先(電子メールアドレス)、所属、発表題目、400～600字程度の発表要旨をメール添付で6月10日(月)必着で事務局(hikaku.tokyo@gmail.com)までお送りください。発表時間は25分、質疑応答が10分です。申し込み受付の返信をお送りしますので、ご確認ください。

学会運営に関するお知らせ

前支部長源貴志先生のご逝去に伴い、東京支部幹事会におきまして二度に渡り、新支部長および支部運営について話し合われました。支部長選挙の煩雑さと現体制下による運営の可能性を勘案し、臨時のサポート体制(担当幹事および事務局長補佐)を作ることで、今期に限り支部事務局長が、学会規約に則り「必要に応じて支部長の任務を代行する」ことになりましたことを報告いたします。

月例会発表者募集

支部月例会の発表者を募集しています。申し込みは支部事務局(hikaku.tokyo@gmail.com)に氏名、所属、題目、連絡先(メールアドレス、電話)を明記したうえで、600～800字の要旨を添えて電子メールで送信、または郵送でお願いいたします。支部役員に託されても結構です。発表時間は45分(質疑応答を除く)です。

東京支部事務局より「お知らせ」の配信について

東京支部では支部会員のみなさまにメールマガジンの「お知らせ」をお届けしています。原則として毎月1日発行で、例会や支部大会などの情報を掲載しています。これまでお手元に届いていない方は、日本比較文学会東京支部の支部会員のページの「お知らせ」のウェブサイト(<https://www.hikakutokyo.com/mm>)のフォームにご記入のうえ「配信希望」をクリックして下さい。メールアドレス変更の場合も、お手数ですが、新アドレスで再登録をお願いします。

日本比較文学会東京支部ニューズレター 143号

発行人：宗形 賢二（支部長代行）

編集委員会（編集担当）

委員長：椎名 正博

委員：岩下 弘史 亀井 伸治 越野 剛 庄子 ひとみ 鈴木 美穂
中垣 恒太郎

事務局 事務局長：宗形 賢二 会計担当：土田 久美子

事務局委員：川野 礼音 小泉 泉 芳賀 理彦

畑中 健二 蒔田 裕美

JCLA

日本比較文学会東京支部

事務局住所

〒411-8588

静岡県三島市文教町 1-9-18

日本大学国際関係学部

三島駅北口校舎 607研究室(宗形賢二)

TEL：055-980-1924

E-mail: hikaku.tokyo@gmail.com